

—ニチニチソウ—



学名 : *Catharanthus roseus* G. don (= *Vinca rosea* L.)

科名 : キョウチクトウ科

属名 : ニチニチソウ属

形態 : マダガスカル, ジャワ, ブラジルなど熱帯に広く分布する多年生の半低木草本. 日本では1年生草本. 葉は対生で長楕円形. 夏, 葉腋に紅色または白色の花をつけ, 日ごとに咲き変わる. 1950年代にニチニチソウ根のエキスが抗腫瘍薬のスクリーニングにかけられ, このうち悪性腫瘍に有効であることが見出された. 成分研究の結果, 多くのインドールアルカロイドが単離され, これらのうち vincristine, vinblastine が1960年代半ばに構造決定された.

成分 : アルカロイド (vincristine, vinblastine, vindoline, leurosine など多数)

使用部位 : 全草

用途 : 抗腫瘍薬 (白血病, 悪性リンパ腫, 小児腫瘍, 絨毛性疾患など), 観葉植物

薬理 : 紡錘体を形成する微小管のチューブリンに結合し, 細胞周期を分裂中期で停止

→細胞増殖抑制作用, 白血球減少

製剤 : ビンクリスチン硫酸塩 (vincristine sulfate), ビンブラスチン硫酸塩 (vinblastine sulfate)



悪性リンパ腫 : R-CHOP 療法 (リツキシマブ, シクロスファミド, ドキルビジン, ビンクリスチン, プレドニゾロン)

ホジキンリンパ腫 : ABVD 療法 (ドキルビジン, ブレオマイシン, ビンブラスチン, ダカルバジン)

参考

『生薬学 第9版』廣川書店 『最新 薬用植物学』廣川書店

オンコビン注射用 1mg 添付文書, インタビューフォーム エクザール注射用 10mg 添付文書

国立がん研究センター CHOP 療法の手引き, ABVD 療法の手引き